857
134
注意帙入

国立国会図書館　タイトル『法音抄 5巻』 請求記号 857-134
ガラス使用

857-134

柏崎

死ぬるに臨終善光寺に詣で法然聖人我往生極楽の
為に死しぬる別時念仏をもつて素波みちびきたまふ
百余歳なる日本摂州難波の浦より来現したまふ
杉山伝濃守入道幸田善光難波の浦とて
ある時阿弥陀仏の化身海中に光を放ち給
光り浦よりあがり給ふ伝濃守海に入給
いの名号を寺号とし阿弥陀と安置とし善光寺
と申せと御起のつまびらかなる事を涙裏物よ
んでしるして生身の阿弥陀仏と

あつ法像木像ゝ人伝どれも利生の奇特ゝ現
じのゝ況やゞ善光寺如来ゝ霊木ゝ仏ゝ極楽ゝ天
竺ゝ現じ給ひて今ゝ善光寺の霊木とあらわるゝ
れゝ生身如来とも也ゞ不思議ゝ霊験ゝ人ゝ多の
ごとくなるゝ霊験ゝ守屋大連ゝ滅ぼ
なでゝとなりけるとゞ仏ゝ中暑ゝて
かゝりけるひゝとんゝ和尚ゝ
ゝ義とゝつゝうちにゝ一寺ゝ建
同寺境内ゝ霊験ゝ考ゝ
ゝ生身の字とゝひろめん

極楽悪人ゝ化方便唯称名得生極楽
ゝ人ゝ悪ゝ仏都生要集ゝ六道講式ゝ
ゝ悪ゝ極楽ゝ悪人ゝ化の方便ゝ
ゝ称名極楽ゝ悪人ゝ
ゝ称名ゝ極楽ゝ生ゝ
ゝ悪人ゝ生ゝ仏ゝ
ゝ称名ゝ極楽ゝ生ゝ
ゝ称名ゝ生ゝ
ゝ称名ゝ生ゝ
ゝ称名

成仏の因と成事なれと律儀の祖師とのたまへ
ども戒のわるさにおそれ仏祖の教法
とくあつまれる人は往生の業
をもつとめ戒のたもつ法は教生の業
は自力なれはなほ教生とのたまへ
ども完全なる法教生とのたまへ
ども感じ往生をもとめ
ければなほ法とおもはれ
ぬるなり法とおもはれ
ぬるも浄土をもとめ
わろ事とさとり
をもつて本願他力の
法を信ずるを

の極重の人も往生をもとめ
浄土教をもとめ四明教行録曰破戒罪
十念の往生不
十念の往生をもつて
生の二義とをもへり
とおもへり
の法は不
生の二義
とをもへり
逆罪の人
生をもとめ
ず
天如惟正祖師浄土或問云問曰
逆罪の人皆
往生
念仏
生平答曰

大悲力也と称してきたるよ那先師と引給ひ
あとへ百枚の大石をとらく私のよしてをば
私のちからつよしにうかべよ石をとらよ入らばそこを毎
をとをさへ小石をまくをもみるよ法門じ一宗をもとく
この世人一生悪をつくれども法師よ念仏をとれば法
梨よ入らばそこを念仏をとどんが小悪をけうとい
どもまを流梨よ入悪じまをまを大悪をいはば
をとれでを私よ念仏の願力よあとへ百枚の経巻
とは悪業よたとへをもへ悪好集よ極楽よ往生
悪人事をどうとをあをへ私

あををちびをされ石をもうをてをちうひのうみり
彼ををれゆうをと縁ををよ法門をれをうびをあ
自伝縁よものをををしへ
唯仏の浄土を受持をを寺乃栄堂を西津
を悪い極楽れ九品上生の業なをよ
唯仏の浄土乃あつうひい誓願寺にくうくのをう
をれで法師仏門れ衆生を西れ法師と楊次
公ぐ十願編の序をいへをでくをれで縁後の唯仏の
中にををいうをにをむ月をまを仏の中に縁へ
まをくをたびをいうくをあう事二西の続法

しりひあるをもさうどとくまりけ嘆ゑ浄土とまう
よりいへけ善光寺ゑ妙楽堂いまうくゑ法華経
ゑ堂ゑれいをれゑもちこゑ門陣ゑ何法華経ゑ
ゑなるゑ九ゑ中にいとゑ上生ゑ堂のうへ為
うよ何とくけ堂ゑ門をゑのうとゑん
女人の弟ゑまうきこの御制戒とへをこゑた
如来ゑ仏をまるうへ人へ何とゑへ変て
ゑへ南云何法華
法華ゑ女人悪人とうくわをれこのゑ第十八の
第ゑ十方流生とゑけうひへ人をうもまうどへ

ゑのどゑ女人ゑ悪ゑ
いうくとゑ
生ゑ
ゑ
ゑ

事をとうびそそぐ方格式上生門陣より
いざわれん
釋迦いやり法の道びくとのろかを長ぎ釋迦より
尚森よりもひ河わろ流よ高に強ありとへ北絶
北ろの法ろ法華の薩事授記ものひ〜ん
仏代男へ出〜
ものと死よりもの大王と金輪会とと長ぎ大ろあり
寶海梵志と長ぎとし釋迦志ひとして金輪
会といざなひく宝蓮華ものもの時長
会ものと十八教とおろして流より法華
法華法師品第十

後仏とおりてあ方とうまへ男代流生と引等〜
ものへ寶海梵志と釋迦と安陽代流生とあ
方へおひもんとれらひこと代国王と折伏摂受のこ
門とろへと四元亜指よ
いろへ折伏門より法華をみち多くとあろぶ摂受門
よわろへの悪義法の千八教へ義事長法とれ和
長わろ事より法華偈頌考上生とのとを〜
回物代祝より寶義ものと法花ととちぶへろ
ろくあとろう事をとうびそわろひへ教教事〜生ろ
もあ津ものもとみろ生勇代法華代まし

国立国会図書館　タイトル『法音抄 5巻』　請求記号 857-134

ガラス使用

奈緒者とは法華の名号と一念の事なりいづれも
言葉は往生とぞ聞えしよ浄土の教の名目とまちと
云へども天台大師親鸞流は我一念成就の往生こそ
往生の極楽光明とまちと念仏の元祖と
おもわるるとうち利益なりかれはそれとまちと
もうす宣元とは二十五菩薩を数ほうを
はさうむるひとのとはいつもの九の数乃なりて
河源流は異法宣元親鸞は其あとを元のつ長と
東元僧都ふるれば法華ふるまの極楽ふるまの
もうわるるむるとんやれうとは浅ましきぞれうと

なるべしと白毫寺の事なりの西蓮寺
とは親鸞は浄土往生の模のあるとそのより
元は元の極楽なれば人は第一と教とうち
の事なれば海上の名号なるべしと義中
も都ぎるもうそれもり美濃は堂ぎりうと
は往生は不思議なる事とそれは感動をうべ美
事なれば往生信とは生はみぎり最乃
元は人やうのうと感ぜしへ人のり白毫は
つるのうとは白毫は生のうとはみして
乃唐雖ぎ奉生ていうしは美故ぎ韓偶とうを

元白居易とつゝぬくといひて妙法蓮華経集記せり
周書異記云 昭王二十四年甲寅歟 周穆王の代に
十二年壬申歟 二月八日 辛酉 天下大いに
ゆるぎて 西方に白気出 十二月 ものゝ
ゆるぎ 多くの人 ものゝ
ゆるぎ 鹿苑 入滅
なり 支那 ものゝ
なり 法華 人 天地 感動 ものゝ

なりてゆるぎあり 華厳 樹のあり 法華 集 とゝむ
法華経 二月 二日 蓮華 ちる
なり 次 日 美なり 花 宮 ちる
世 ものゝ 十日 美 ものゝ
ものゝ 鄙 ものゝ
信世界 幻相 ものゝ
うゝ 猶 変 花 蓮華 国 花 ものゝ
生死 去来 ものゝ
世界 幻 ものゝ
ものゝ 幻 人 ものゝ

けてう、鄙より都とうつる家とうつる事をなげ
どもあらがひ難やうあるべきやうなし
くあるとおもへども天皇より代々の御門
より幻術とうとく世わたりなる事をとゝ
しとゝ事勢まさるとも
と名づく源氏まぼろしまぼろしこれ
参考人生の幻の生れ中に何事とかうんとい
家よくりく泡とり花花業ふる風のあり花
のちりまのおけるとえんくさせ有為無常
ぞとはとゝぶみも無世よいぐし法覚師

とゝさかとの世よいまうあ加よ山花花業とく
じくさとりよいつとゝ事勢浪海ゑ野人も教子
とゝにのよ入くみれもぐしまの業れもつ
とんく世れ言といとひ乱ようくどもあ代とぐ
まゆりと事勢邂逅よのをうもあれよくゝみ
へつとうぬ字の云ゝ嬢業穢拙平いつまゝ海等
ゆゝひの世界ゝうゝびしつりく造化ゝりく云
為ゝわと云世俗よゝふゝびゝくやとゝうゝ事と
言為ゝりといふゝゆくゝ五為字とまるべし指義
うつりゝる事といふ電光石火とこれまゝゝる

あるいは宗滋法師は妻子八人ありけれども
のちう中に雙石火電といへると雙目電光とあり
二人のあるじ人ありて妻を焼よのをとりて
師滋法師云人生世間有幾時石火電光駒隙
役身とあり ひとり法名人名は生涯のあいだ名乃
火ばちのくかどのなりまぬいるびうれをくめく
いと面白しでまことに目とつまれ事人命三昧
定を編みも人生在世石火電光と云こうう石火
光中寄心身とのへうもあれ事なり生死の去来こ
生じ来り死し去りこと

三界は流物ーく物人間の有為乃時ぐうれ雲の
ごとし

三界とは欲界色界無色界なり界字を限也別也
と法ーくうれりこれ三界と名づく界生乃
住処とで三界よりぐりこれ九地は三界と名づく界
は欲界とは貪欲欲なり九地とは貪欲と
くはごとめりさらく法はしやまあり二は色欲とて
色は着もろこしは食欲食事はしさがる
公つ死人には婬欲とくは夫婦愛欲は乃ち
下は阿鼻地獄より上第六化化天はいろまぐくに

種々の欲色あり。第二は欲界と名づく。第二は欲界とは
多くは人事なり。天人もありあれ欲界のごとくに
ぐれてあり。きゝよりあるべきなれども清浄なる
あくまでとぐることとぐれる事ありてめでたの欲界
六天なり。そもそもなり初禅梵天といふ。初禅梵天は次第
あるべて十八天あり。あるいは阿迦尼吒天といふ。まぐ
る女は形もなくまぐる欲深もなくまぐ化生は
しく多くあり。あるは男女中也。第三に男女
とかくでんれ多男十八天あり。そもそもこれ所にあり。
ありて多くとくらもなしくらで先定愛しあり天

おくらの犯々邪淫といふ天まそれ男女のあのごとい多
邪婬の心れくらるれ牛にくとそれるとて
なるれは男女と名づくは男女は義男
生るひこ男はれ流生れ流物生死まるひ位
なるれは二男は流物とといふく流とさま
ひあるく事みれそれくるくごとく物とはもあ
ぐりトへさぐる事車の輪れめぐるごとくとくしく人
多といふを欲男れるれはふ男欲のあるれ
なるれはよりしれ男物あるれ男
物人多れ男物のごとくしてもれるれ故は

ほれとぎや明けき真如平等なれ菩提涅槃
あるとも歌うて煩悩のそうずるを結びれ
ぐ如くき
とよへ人るれ高貴のそれぬとそこにあるこめるに今
みそもの濁り月光のくやくぶくくれ高貴の
うちにうちに生如平等菩提涅槃なのあり事なれば
するいら我本覚れ妙理とあれ〳〵あめるとれ〳〵を
はられ菩提いうべ死事なるとそのそばあ
ぐ〳〵煩悩のうづるよしとうを事なるか
〳〵とく生如平等おく〳〵天台祖妙楽大師

如海内後生仏性名平等性中云自化報応
伝論中〳〵生滅門生滅門とは事とそのの人
ひ流生言ふこと我とさとうこ
ふて金剛生如平等おくわりあ
くまりとかくあるわうごと生滅門とこれで
ひ生滅門とこれくいづも生如観法
わうべ死ぞや加よ生滅ふうり人くうれ生滅我
ふれう生門よりう入と智旭の到妻胡琉にも
徳をもうあとうあとんで示ありわるれとなる
とれそそうあくよあぐそうべれ水とあそ

ゑ[illegible]年等なりのめ[illegible]ぞとく生滅門のごとく
[illegible]仰よ流生のごとくいろ[illegible]名いあもと[illegible]笑如
門よ海とろとれいうゑ[illegible]れ年号ゑのめ[illegible]
字ゑ山焼よくいくゑろと次よ煩悩の延よ法
ぬろと煩悩ゑ[illegible]ろとなやまん[illegible]ゑ[illegible]
よむとかゑくとこの煩悩かゑくとゑりて仏果
ことゑみゑ[illegible]河毗達磨集論ゑ[illegible]
よ法とゑ[illegible]のむとゑ[illegible]ゑ第一
貪法とゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ第二よ[illegible]
とあゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]よ慢法と

いゑ我慢なゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]よ嫉法とゑ
ゑ称ゑ[illegible]ゑ第よ[illegible]法とゑ[illegible]
とくゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]よ煩悩と法使とゑ[illegible]
[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]煩悩ゑ[illegible]
よ上ゑ法よ下ゑ法よ九法十種百八法業ゑ[illegible]
ゑ事ゑ[illegible]
第次第よ出ゑ
花厳ゑ山ゑ生ゑ[illegible]海よ
つゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

重ねて集めこの花厳経に流れ生滅相続し流転
とあり第五同法集に生死海闊業乃雑雲霧とえ
業海闊花排波とえ無明風吹波浪涌金剛
心雑縁傾動とあり是花厳の山なるべし
此国の人は生死海のごとくにして底
なくしてひとつひとつ手入れ果てとうていた
ち合はぬ云ふ乃十九道の
法十二縁法云仏言流生法十事為悪何等為十
法四法云仏言教盗婬妄語
云云高嫉妬瞋恚十事不孝聖道若十悪
三種邪心法と法とろ云なれど教とは他のいのちと
あるとは云盗とは人のあるものとろへ盗とは人
物まづいろく不浄とは云なれど信は人の妻
とはなりて他の妻他乃夫とは人の事とは
まぐはれ云ひ物ひとくあるとはいひく
双方の中とはとりもちとはいとくとは
事と云婬とは云なれど事とはいとくとは
いかり瞋恚とは義理なるなるなるなる
ろとはとは云まぐはれ云ひ嫉とはひとり他
とはとは人の他とはさ人の事とは

そうしてとりつまとしたこころをもつて拙

なるべき事あることどうしてみとりとしたいりとしたり

と癡といふつくれのようなる何の理よりおぼえそわれ

ありけるに事といふこれまでぐうこころをもつて仏と

ばかりとしてこれ世よりまれこうとは七まと名

づけて業とするるこころをもつて菩提道と名づくる

仏也ば初の仏法ゆえに三界一切なり仏の法仏仏

及衆生と実相を是三無差別なり何様ひれるべきや

初の仏法とは初の菩提道の業を手にとり

もつぱらに成道しのひて十九年に二七日ばかりぐ法華

[illegible]

[illegible]と仏の法はいかに世界法よ

三界唯一仏とあるは三界はかにあるべきなる物界多界

無界なりこれ三界の外に衆生界なるべきこれなど

なるべき世界なれども只これ一法のみなるべ

の地のこれ仏とあるべきなる仏なるべ

と仏は衆生とぬきまのおとさるとれのとなるべ

いはで我一仏なりこれ仏とは仏の法といふなり

こと仏の外に別の法なしとあるべ仏及衆生是

三世三界とあるべ仏とは仏及衆生とこれ

なるべき仏と仏界と衆生界乃仏界衆生界

業といふ。今除かしめ給ふ。佛業とは、諸
ざつとをこの世の佛宗生れ中にいづるを祝ぐ。
さとりをひらくんやといふ。紀天台宗の師は、
佛界をもて信とするゆゑたりて及びがたく
もて凡聖をれいぐ。むろくしき方言なり。いふ
ちうちうに凡夫のいはりてきたる。佛宗をもて根
源なりのはでこの界のなるれいをもて解ずして成
佛の法をもつぐなりなりぐ。やはり紀事ずとあ教の根
教ふも法をもて事とし故はいうひよ何ぞひの
あるべき凡やとい我ぐ佛心とい神なる事なれ

うぐひなる凡とをもてこのちれこの身れ法後妙業蓮花の
浄土といふ。あれ後を生後の辞さ
この身れ法後如来蓮花の浄土成べくい易べうべ
ひ寺に沖池の蓮花をいふ。人成事とをどうもぐ
この身の法後業とはこの身い我今自れ宗れもどうと
をこひすぐれうちに法界の法佛乃法身のいる
ものあるべよりぐ凡とれいち阿法後妙業れ
この身れ法といふ。あり表凡信都云豈安後
ゆ求極乗何起この会法後妙時
乃わつられうち会佛歩福よいく彼極乗法後相

好況時分自分別時分彼仏我仏自分彼仏
之仏彼仏是我仏之仏一體二故心浄土本性
法とのり回向よりこれ法とをのづから我と
れくるよ法なりと仏の事我いとるやうにの
そりをれられるやまとりの道の見解
天如禅宗普度元興一元懐則如叶智恵性宗大法
をどれおのりをとりくをりくを流とぶ大乱りきりを
うの事八十万億劫の法とをまくゆるぶうど
くをぶりとれをちこれ法禅と祝どをり
浄土宗法とまるをとりくるぶりをぶ

をよとてはんとうをくをあるべくとをぶとをあるとうぶわる
まくをあり法若寺の御池の蓮乃法とをくぶ花
とのりをとりとをどをくをぶとなりとりぶくこと
也祝仏のあるのうく安楽の池と浄土の池と見る
事をりとを天台祝法をり西とを浄土乃池と安楽
の池とををのを細をり法流より老比丘修行のをよ
な法いとをれ乃中花ぶの蓮ぶふをもの世界池を風ち
をりをりとをりを浄土のをりとをとをひとれ世とを
をを仏旧教より浄土宗祝をりを表ぶなりやうにを仏をり
いりを西をりを天台宗融の念仏とをぶくを法とをり

国立国会図書館　タイトル『法音抄 5巻』　請求記号 857-134

ガラス使用

方は法文の意は法文より流出とぶらんでとあるは
うつくしみあるは法力はあるとけ和といふ意は二河白道の
とはもうは蓮は母のおなじかあるは法の流出と
ひのくは流出は南無とうのこと[illegible]
のとは忘とは[illegible]
[illegible]は[illegible]
極楽浄土と黄金と沙[illegible]
[illegible]
抑樂と極むなり麦はわまことは生れ行道極楽の
れは實の泥は水とぐちは涙の表は教

樂と極なりとは極楽と云字と別はあるは麦は
まことは生れ行道極楽は[illegible]
就は[illegible]の[illegible]の道とは極楽は[illegible]
よそはくの[illegible]とは生れ行は實の泥は[illegible]
[illegible]は法[illegible]は極楽は土有七寶池八功德水充滿
[illegible]中とは[illegible]八功德水とは称賛浄土經の説なり
其[illegible]は[illegible]捨の寶は池の道は[illegible]
やはは木の花とは[illegible]は[illegible]とは
[illegible]は極楽は池は八功德水[illegible]
[illegible]は池のくは[illegible]は七寶の池とは[illegible]

猶をそれ七つのたからまく池の宮殿とぐうたくをの
るあるよその七宝ぐうにうつくしうまよの七宝をよんる
ゐゑあるまゝ露のたのうすごとをまのくに彩
をけばくれなゐ井はすをいへるゐ色のようう漢の美めと
ゐ阿弥陀仏よ池底弥勒以重閣布地しゝく極楽にい
重閣楼と池の底りまとまるゐるゐるとうるゐり
ゐうりくいゐゐ
帝なる犯いのちは仏成ゐゝや
才十四の犯よりは成仏しゝくのち善悪よりう
ゐゝんとちひゐうよのゐよ阿弥陀仏梵語此ゝ

極楽とよりゐゝ天竺の師も極ゝのうえゐごと
りゝ我いのちをゐくとゝ浄土往生れ衆生のいのち
みゐくいとゝ何の業ゐゝんやとおぼりて
うさゐくゝ十悪の犯よ眷属長夢れ犯とゝく極楽
よ往生ちゐ者と同じゝとりてきうんとの浄犯
ゐくおゝゝまれゐよひうゝひふゝ浄土よ往生を
しゝんとゝれゝちゝ善悪の仏とゝんゝくゐ往生
なり回向よいひゐゐちりひとゝとりりゐとゐ
ゐ我成仏十方れ世界なるべゝ本犯極楽往生べ
ゐ今れ犯おゐ称ゐゝゝ善ゐの行業とゝゝゝん

ゆるびくとゆるあり彼國より迎へ行くべし
土のごとくなり
善導和尚の云 願成佛十方衆生稱我名号下至十
聲乃至不生者不取正覺 彼佛今現在世成佛南無阿
弥陀佛 会の時往生とあり此四
字は稱名四字は八字の内大きとうひてはつかれ
ふうへと信炬燈より法然聖人のきうり
法の末代の流とくるもよりもとと
ろに此稱のうちより現在成佛とあり世の字
なり 名号は善知識より選択集と

仰へうの世界にも此世の字なり〻〻〻世より相初
を選擇集は世の字とまぐくろうのをくよむの
ありとあんとは義大りよりあやまりをぞよ法然の源
より世の字と入くは十八字なりとく事教のうへにはそ
わてくをうれうる事とく法文洛陽遠近院の法然上
人は選擇集とうわくあくそくをうの時の字を
ありもしかも世の字をうあり今ひとうひあとは
信をうれは稱は意あくうもうとうれば稱の名号
をいうあとうのようをうれば稱のそんと死十方の
衆生我名号とうをうをとをうをいうんり

国立国会図書館　タイトル『法音抄 5巻』 請求記号 857-134

ガラス使用

よりてこゝろのむこうしゝ義を命者總御弥陀一尊之為人之所重奥不為生涯奉ひ云二ゝ為以生涯之業

といへりこれ凡夫のちゝ六根の悪ゝ為ゝ

耳れ為ゝとゝ処ゝ人ゝ大事ゝ為ゝ

何ゝ是ゝ凡夫ゝ為ゝ二ゝ心なゝ為ゝ

ひゝゝ人ゝ為ゝ弥ゝ

ひ為ゝ凡ゝ為ゝ

ゝちゝひゝゝ為ゝ

わゝゝ同ゝゝ起ゝ

六根清一心起而背自源弛之

還源一心これ義のゝ凡ゝ為ゝ

凡義ゝゝゝ為ゝ

ゝゝ一心ゝゝ

凡ゝ為ゝ

自ゝ源ゝ心ゝ

ゝ為ゝ

ゝ為ゝ

ゝ為ゝ

ゝ為ゝ

もろ義りよりのつへしひらうひのむれでおのれ義ま
二りあでし用の毒一

山婆

ぜんし罷とるる孫後悪つるさ
善導和尚釋利劍名号一切称念罷皆除とのるみそいうこと
ふ会仏とつるさふたくへてつるやうるる極重ル悪人なりしも会
仏ぜんそば法利劍とのりてもろ〳〵の罷色どるるん又五百の十疑論
十圓之索の如不制蓮の揮へ劍の須臾為スと称しまつる法
教法と云ふ八万個の索と云ふ云如ようりあのこの悪業のつよ
さふたくりて丈とふ人の勇力のるるものそれれなくの凡夫
ふたふれいあ十用のもてれるひとふ人のつるさのあつまりて
ひさのひてもられあものこ業みとふ〳〵みて変心除りするるのに

仏と人間とあるときは法後会仏のたまひし御人の行ありさま
法後の利剣をきるとは花をたらまちのぞもしたがくのちに
の縄ろうとされたるとは法後はれ十会よりて帰依のわ
いとよくとすてくうしてしたがうとは衆生を花とき
らんとせば所々の一切をもつぎしを手ハ法を所の中にあ
すがくく

和讃 浄土ハ十方恒沙

仏法後弘法是和尚遍十方住佛土有世界名曰極楽と
りつるもうふ弘ふ者しく説法も歓弘ふ者ハ
ともんくらり天台十疑論ハ法後佛世尊又業力

不思議なる故ハ一念の間ハ生ズ不可思議といまハ念佛法門の業力ハ
不思議なる故ハ一念の間ハ生ずるなり法生するなりとなり
かるもむくいとも
法後未来の世界
十方の諸ハ法後世未聖教をふ本根ハ行人を遠離して
和方仏ハ法ハ和尚ハ
世界高徳の妙花敬開く事世一時乃ハ
この世ハ世界の人情ハ
つくして仏法ハ
すると法ハ妙法の蓮花のひらく

ゑぐすかりらくくゝ心中の妙花れひらくはのうりがとゝ法花
経よ浪世間ゝ資生業等皆仏法ととれるゝはのくんれば人乃
身をすぐ世をとゝはてゞそもまそもみな仏法なれば無学の智
慧師匠無学開蒙の為仏法花開敷く自一別浪世諸文資生業
乃五蘊笑地獄数無法仏法ニとゝろこのくんハ
業法花の閑乳の妙理ゝ仏世とのくんハ継て繰返
士農工商の家職もあるひハれ人すべてひ武ハ人ゝ
家をとゝなゝけあるゆゑにぐさまとゝくくく実相の仏法
仏教学ハゐゝとゝられ文めてゑれば人ゝひの辞ゆゝくゝ
学あるゝ無ゝてひ山地の始終ハひ特ゝ乃ゝ人ゝ

ひ人ゝ仏法ひとゝ仏法あれば世法ゆゝくゝあるゝ
学者衆の為仏教の為ひ辞仏学ゝ
辞ゝ人ゝ
辞ゝひ仏くゝの妙ゝとゝくて楽と奏する義ゝ
為仏事ゝとゝくゝ辞迦仏教とゝ従法ゝ
とゝひ異の元生乃学小ゝて仏ゝ
の教義ゝ世ゝ人ゝ人ゝ土月ゝ
仏世とのれ特性の長所ゝ
長所の孤ゝ人ゝて仏世とゝ
ゝ利ゝ人ゝとゝ光仏果ゝ地獄と仏世とゝ車の輪乃世とゝ
とゝひゝ人ゝ生ゝ人ゝ地獄ゝ人ゝ

はるゝ永明禅師云沈三界二輩口免物迫今代物迫とのべる事代昔有りしうさんと云ふ

安念ひしれてゆどとし孤忍する人

きく林小背とうり思はなく前生乃業とうむ涼新ゆ

と伝ふ天人迦ゝも幾生乃苦とのわこぶ

菩提ゴ人ゑも人ゑ第五ともつをとりゝ人きく林と云

きも天笠ゆそ死人と奪する不ゝ人すれる紙型年書ゆどのゝ

ひ林ゑすゆてたるさひさ加山きを林と名つく信紙ゆ代林ゆ

の死ゝるゝひなをさ加ゆ人ゆれをんて身もひやうふゆてゆをろゝ

加ゆ金林といふと美流とものせてうくゝ八紙名義集第七

きゝのんゝうゝ代背とり加年ゆむゝゆゝわうくゝみ後のる

ゆなるゝ紙中ゆ紙鬼ゆりくゝ川の死鬼とゆて殺ゆて打

擲ゝゆるゝをゝふ偽ニ云因テ遠真皮嚢ニ波波刻ゝ化兵

名金技系不貞背ニ光目業ハ猫殊ゆ愛泉業月

長真須痛打代恨猟ゝ忘代偽の主ハ淺る愛ゝかくく

ちる皮袋のむくゝるゝりのゝをちゆめゝまくゝ代対動の

る紙鬼とゆて書を文ゆ年ゆりいりゝゝれをせゆゆり

ゆふりとゆるゆ欲とくゝゆ年ゆはふうりやをゝゝづく

のひまゆ皮生のいゝゆをゝゆ光をゆゝゝじをゝゆ紙業因ゝを

づゝ編様のものもとゝれども黄泉の旅のそらひの月ゆゑ
いま始めてうらてをとゝやしをうゝをとすまゝをゝをゝを消
み花をゝ消つ紙鬼み間てをくゝ何加まろみまをけやと参てを
ひ屏紙をとゝうゝめゝとゝかくゝのぶゝゝこのあふけとゆつを何い法
ゝんをけゝゝゝ屏何の遺ゝゝゝんとゝうゝ文ゝゝゝくゝのいをまゝり
てをとゝの天ゝゝをまゝ天ゝををとゝゝ手ゝてゝいつのゝゝゝゝ散ゝゝをと
をゝる偽ゝ云法ゝ是前生紙。花今天眼開。宝衣法会ゝ。玉食自紙ゝ
来ゝ謝ゝ法ゝ花勧苦ゝ冬音ゝ今使就。散ゝ花ゝ時ゝ再特ゝゝ人世英ゝ云ゝ
猶ゝとゝ偽ゝをゝゝゝんゝゝとゝれゝとゝゝお生ゝのゝゝゝれ今天人ゝ
天眼通ゝゆゝゝゝゝ

かばかりとゝまるもこゝろ中にも消つの変化はよく〳〵心とつゝが
なき事の二法は心れ一法なれば死骸より細いなることなし故に経卿花は
浄土文の偈十悪をよび加事と云して強は浮世の花法外
の以ある徳は極外不可何外人神絶ス於死骸之中所ん非所
縁ヲ云へは皆神也強は近人用ル所ん花之中是無機
用ル之を不吾外ある無益機は加ある天人は云へは也吾用ル死骸云也
為鐵鬼は云へは世ニ不吾用ル死骸は云也生遠明ニ段生
文殊師利礼之歌ル之云何ノ蓋ひ浮の生今此鐵鬼と天人と
の説をたゞあれ世俗と紀導する一偏の事とをこの死骸とは
つ事ゝをもうりとせばるゝべわるべきをれ人のなりぬ

かゝらとものやどりのもとして生とくの事をもこゝろとつふ
ものゝるゝにたまりぬをたくくいとぐ細ユ人ゝ生界の乳とくつ
ゝとをするの生界よ人はなべゝびたゞ死細ユ乳と人生界
いむ〳〵もまた生界のさゝひとわゝくつゝひねるとをもはこ
生界ゝかとをたをを生人ゝゝゝむゝゝゝ細ユゝゝとをを
はゝゝゝゝれをゝゝく天人とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ものを鐵鬼とゝゝものはゝ死の生ゝゝゝとつゝひゝゝゝのゝゝね
ゝのゝれゝゝを始ゝは云ゝを時ゝ心ゝゝひの吾ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝと死死とゝゝ向け歌とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝもの家をゝ沙門の変化とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『法音抄 5巻』 請求記号 857-134
ガラス使用

すでにふつてうすといまは教節のうちをはじめて修法をなる事いん
蒼教節の人うち故事をあはしめ門の伝いるうりしかと学ぶ
ふ浮世文もめつの徳ハ人くずそ旧来うりの徳ハなかふ者林と
林と事なかもわれとをうるべくしん教生とく生くとくこびて事ね
うる事と指掌と死の織見の者とり偽ふも海く翻く仏と仏
るく死ハ生く世くのまひいかどくふるれど天人のお生もと
生とひど事うれハ銭生とふいふ
若恩不二　天人とうるハこれ恩ふれ若人
若恩の二道ハめづくしくねども各別の理へ先儒石夫初若徳
恩とも若きもとは事恩きもとは徳也死ふも卿人ら若きふ

始之去不若ん恩く　といれうりの道かど各別なるとと仏
とも若恩不二といふがうれど若恩の二ハ各別りの人命
恩ふの対すれハ若といふ石を始ふども恩ふうと死ハ若をふ死ハ天
童凝孫師の徳ふも聖人ハ大教之河不可とふるも若恩不二の
人徳ふうべくらくのがりていそぐ老花ふとする不の聖人死せん父
遠やまべの生ふもうるべきうくしんれふるのんとうべハ法始参
考之事を石利之徳の智恵ふてふ徳ふりとふるふのうちがうるとよ
えてんるべくいかとそ死のおうより云と死ハ仏ふも性若性恩の二理と
そうるべ又死生も性若性恩のうるふし事ふとうとそそそうる死
うのふうるふ事之死ふ不二といふ之辛知安ふ所の恩とふを事

りとてゆくりくあたにかよくふ暑れ
お生の業とうゝむ事も衰生の苦
十二 何のとう拓こ何のとう拓ぐんや をゝゝもあるの苦苦不二のあるを竜
輪廻諸縁に云ふ人はみな苦不変へ過レ楽に不来とあり拓ぐとゝ
ゝとうゝぐとゝもゝか変苦のとゝの法あり衰生せゝ
十三 ゝゝうゝはのうゝとびうゝひるゝうゝんや
月衰の光をかくを
衰のとゝ月性衰実の能とゝして云ふ智恒河の起伝海の裂網
衰ノ二云衰のトハ云衰ハ渇ク愛を性ふ嘗以下北関国に赤北海郡に北中
愛ノ中る色云衰未分別方隅為衰苦に加に衰ハ渇ク愛を性不
衰云生云滅云垢云浄云増云減せり以ハ衰の

実ハまゝとるれハを性ゝぐり愛ゝ愛ゝ変ゝ肉づゝのゝ
らゝはまゝゝ衰ゝどんゝとゝゝゝ

をも我心のうちまとげて燒をとげるごとく自性三昧のゆゑを
えんぎ極樂に擬千日月ゆゑ云祖偈もある通
風力の愛と称ず
これハ佛果ハ力の我淨の心海といひ半ばとなり日光まぶ
半ハ白くてひまもひのをごとくの報恩して力の我淨をたゆる
心例と為つきて大ようふ半ん佛称ゆんのそのふと化もれ
生の心例とやゝんとかゝ〜めん心門を安雜双樹八中のうち
心かゆゝ〜ゆゝとや波樂弥ゆゝ家繞称ゆゝとゝる半ゝその
心例のゝ心の力の我淨と半ゝ異して力の愛と称ゝゝ
を力教例とゝかゝゝゝ心力の我淨ゝ世間一切

ゝのゝゝ毎ゝゝゝ我淨のゝ心ゝ化ゝ幻ゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

者と釈し云的と云と釈ずるも天台家は附法 化事に釈して云る
かゞの事にさくりとの事と云ふ佛法はとうるゝ〜く釈ずる事に
菩薩の三字と天台成號は俗諦の外に別も菩薩翻義也情義
謂り上来正是者心也情謂り下化是也然と云るゝ〜
法性と云法法性と云事と上畧して法性と云性と云天台云性
謂擬因に自ら不改義性は義也とをすれども文はゆゝれざる時
此法性と釈ずるは如〜又十二位の妙覚位のかゞ〜妙覚
の理なる故ふれを菩提と云今云と云の法性の
菩とをとしる事なられと也弘誓を釈のと云は菩薩誓願と云
也次は云的と云心強の強毎も云的は云擬時也謂於性云所的

云 他青抵〜メハ云者乃遠理強テ光元〜く儀せとて云的は如云〜
ふるとし云心しすかりち是擬のやうにまよふ故本性はゆうか
ゞ〜元不損郁の二会と云ものゞるうりあて儀は天竺のくら
ひとく是他云的なれ云無所と釈られどゞ正解もなく未云の
ぶく云者ひるあてそなかさしを理はうりむらをひとしてゞる釈
者ゞかてあてそものとさくりあるふゞある故はられと云的と云擬
嚴云者云的為者と云仏はられしさまバ法界に云堂のまよ
六仏事はられど云的ゞるゞめと釈てそれより十二因縁と云
と釈続しく出死の苦患をとうくはは今ゞめて是性して云的
是法性と釈ずると死は云始の妄執云かるる事云は論は山

中の長のありさを云ぬるなかだちとして釈法とさとりのこまとかな
ハ万里の水波と云もみかの五躰云ぬるりをもれ多八万紀
云ぬるもろ〳〵の品数をもろ〳〵の仏ましまさんもの悪人をも悪
をんと紀なして仏ましまさんとして絶行する事と下紀元生と
ハ中ましこれ紀弘誓孔のと紀ハ紀生三毒折を孔交なり金梅除
と八恵心僧都三界義ぬるいに世界の塵ぬ見梅ぬり八見を
ひ〳〵かく〳〵て世界とたもてろを見梅の上ぬ梅ぬりを
ぬ梅のいまざりをまゝぬされぬりさ土位二方虫旬なりぬ梅
のちに滅〳〵てわりさ八海又虫旬ぬれまりをぬ梅のうへ金梅ぬの
わりさ三位二方虫旬なりぬ梅金梅ぬのまりのまぐ十二位ニ

世界事田旬ぬりとりのひ人ぬ八海染界を建立ぬるの〳〵仏和
統絶世界名鉢若ぬりぬ水波紀流ぬりぬ絶ぬりをれを後
見てもりべ〳〵毒蛇ぬ彩紀ぬも一切元生三毒三業造色悪と
紀をもて世界のぬ梅も金梅ぬもぬ元生毒悪のつりぬ
八ぬしと小楽ぬ八海法ぬりぬ元生ぬ事下八金梅除
まぐりぬりぬ俱舎世界ぬ品数ぬ事下八金梅除
抑山婆八生所ぬ〳〵ぬ花もぬ
山婆八鬼孔ぬる紀ぬ胎卵湿化の紀生の中ぬ紀生ぬ八ぬ
しぬまぬも一会紀生の鬼女とうりぬりれば紀生孔ぬりと紀を
天ぬ下ぬ地獄極房ぬ紀生ぬ鬼八重胎紀ぬ人畜具紀ぬとぬ事金剛

畏疏よりおこり畏熱は脈業もおこり又化生もおこる事し出家と云は多
端編身ごとに出姫と云字とやまうしと刑とつゝる事しこれ
すなわち畏熱なれば全分忍辱をそなえたものうてをるもふかわ
ばこのれを胎生の畏熱よりおこる事必さりなり教主釈尊
猶又此熱身ごとこの外生前もかゝびやとともをりれ
ともひとしの始終とをれば山姫ゝの御思生
死と切をはやうれをはは事身を生ばを生のをゝめとゝばを始こを
寄をりて変をまを始をゝとをゝび寄をとゝは三界は安家
六道は定とする節大師もゝとくをまをひのすゝとさし
る事終は変ごとをゝ山姫は始をゝび生死苦用

拘の衣裏　故六ノ元生恐ノ成三界九史驚生沒生生　金ノ花
初生本生難死沒死死故不覚死西東ヲとゝるくし
自性と変化して会化生れ畏女と成て目前まれ共私ニ
ゝとゝる時生を又昆是生をまれ
自性とは生自の本ゝをゝとゝる仏性の事ゝ此明義行縁ノ畏
云ゝ此不等自性ヲ変メ名法ト此一滴ゝ法流ノ別一法道動静
海鹹河漢とゝゝ此ゝゝとゝる義ゝ此ハ生自性と
ゝくまりてうどゝ見ゝ見ゝるれゝゝ思議ゝる事ゝいまゝ御
法とゝまゝゝは生自性と事護する事と始ゝして妄ゝの強
ひゝれて始変ゝゝゝと死事たゝゝゝ

もるべしのすゑのそこにいたりて或はうごきさゞめ
り又海はたゝりゆく河はわたるさゞめしこの死の自性のある異
とぬべきなれはいるけきどもしけ会の会的妄想より起りもとゝ
けく鬼女とぬしも婆娑海すも異ハ異也得慶法と雖
さりれおそぬべき事とぬしてはけれども私心ぬと
ゝる時も鬼熱の性も仏乃性色二性ハ又ゝ死もも多解ぬ
鬼形とわゝりせどもそれも又多是是と心死ゝはるゝハ
元来ハ性そゝ海すもれゝ法ぬとすて仏解と又海すゝハ
性ゝ乃りそれゝ乃ゝさと死ハ性相名別りて実大家の人
ゝぬ事ゝれハけすゝゞすゝ成仏は脱のゝさらんひ如ゝ

もゝまゝこゝりゝ私心一ぬとハ私ハ魔ゝ乃ゝ心ハ心又ゝ
乃多相乃仏ぬ一ぬとハ私ゝ乃ゝ心ハ私心ぬ一ぬ
仏ぬ除又万善同海ぬ云私又相道ゝ多脱
し門心乃ハ亡不ゝ仏界ハ云是魔界不二不別ゝ捕行ゝ云教ゝ
魔界一隔吹実相一万善同海ぬ又云ゝ捨私教心私心俱非ゝ離ぬ省
善ゝ善悪皆又ゝれゝの徳もゝか私心一ぬの義ゝ多是是ゝとゝ
の文と肝性ゝ法ゝていくゝ義解ゝ知ゝ不須得滅ゝ加ゝ遣
云実況是定等と又ゝとゝりひ又義ゝ大のゝふのゝとゝを滅ゝてのゝ
ゝとゝ又海ハ小乗の偏ゝとゝ大乗のゝとハ又義のゝとゝを滅すゝ
ものゝかゝれゝすゝからゝとゝるゝこれ故ゝとゝすゝからゝこゝ

国立国会図書館　タイトル『法音抄 5巻』 請求記号 857-134
ガラス使用

ゐごとくぜと宗門の位ハうけとつぎさうるゆハ無尽燈のゆゑに
文に延をの年代をきしるしるのゆゑにそれをもてそれをもて
まいとく門門あくあらひわるゆゑ
佛法ハ世法あり如幻ハ菩提あるとハ仏ハ衆生ゆゑ
元生あれハ山蛇をあり柳ハ緑花ハ紅かゆゑ
佛法ハ衆生世法ハ仏佛ゆゑ
男忘種とゆゑ世法あり第一義忘種とゆゑ仏法しるし佛法
と建立ゆゑとも世法とすてハ佛法ゆゑ
立ゆゑ忘種のゆゑ月休浄土文ゆゑ
有世ゆゑ法ゆゑ世ゆゑ法ゆゑ衆生ゆゑ

門ハすてゆゑ
ゆゑ大師世師佛ゆゑ
衣と義ゆゑ佛法ゆゑ
門門とゆゑ
の佛法と天下ゆゑ五条衣とゆゑ
ゆゑハ世法ゆゑ律ゆゑ
れハ佛法ゆゑ
衣もゆゑ木葉衣ゆゑ
ゆゑれハ補形袈ゆゑ
ゆゑ大師ゆゑ

もしめしてる物なり又偏衫裙とゝのもゝ
しまる裙衆なれども世法のごとくに
[ヒ才圖給なりしのせくるかゝ如のきるものゝ]
[偏衫裙圖三才ヅエニノ長ノ]
ゆるとしてしめて俗衣にして袈裟の下に着用する天竺の羅漢
[佛製ニハ多ハ毛氏ニ秀ノ手巾ノタフトミテ人ニ毛氏ニ衣トスルヲ]
生の給をとゝのべ一人もこれをきる人なしされど佛家の模尾
[ヒヅリ人ニキヒ人若ノ肩ニ天ルウハガイガリモノヤツニニ月也]
いとんがためにしかとこらりてひらりあるをも仏法のごとくに
がためゝ又一食をする人佛法を所つめて餅を食する人世法なり
天無戒ハ殺ニノ在ハニキルヒ北ノリハニキルハ奈良戒ニテ小乗ナリ左ヒ左廷死人法ニ
はきれ粥をきゝ人のゆ深のなしくるものをゆるしてあまねく
大乗のためゆゑにと小乗体ようとこりをつけの手を人をも
法をしるゆるればまことに佛法あれば世法あり世法あれば
[白毫集 見魂ヒ 請僧ヒ 見ヒ 宮人見 僧偏袒 ヤウ為 遂ニ 作此衣ヲ 施僧ニ 又委ヒ 物調米 摘ヒ 世法 鼠ヒ 杉祖著 正宣間 衣也]

づまね俗ヒなるべし煩悩あれば菩提ありと人ハ虚偽所業擬の業
あれハ卒塔婆小町の煩悩とこれも菩提なりと云ふ法華とゝ人
し佛の道ハ衣生ありと人偽ん法華ハ法華ハ是佛ケ佛ケ是衣
生ニ為衣生ト時代心不減為佛ト時代心不減と云めしてあり
ゆり一段ゆれば佛ととるべくもなしし衣生とすべきもなし
平等のゝハ仏とゝ人名ものまゝ衣生とゝ名もなしと
ゆれて又ハ衣とゝ仏とゝ人仏とゝ衣生とゝ人ゝとゝ人ハ衣生ゝ
ある仏ゝ山桜もなるゝ金剛強ゝ人ゝ
二乳ゝ涅槃経上ニ中ニ衣生とゝ人ゝ
抜ゝ人ゝ人ゝ人

一乗とのたまうれども今の山門もまさしく此乗なれば千二乗の
流出なれども山門ハ法華ハ円乗の中道よりいでたる事なれども
森羅万像仏法実相なれば柳もみどりのまゆこの花ハ
それが井の水とくべし一乗も中道よりいでたる事なれ
問信仰ニ隠れ行ハ斯ハ是法身説ハ是法身説
り又藕糸二頃ハ蓮花紅蓮花
谷ハ紫く黄蘗時緑柳なれども
一樹の陰一河の流も皆色心也
千年ハ千年ハ
独を縁覚の道とぐ仏菩薩の因ぞ

独を縁覚之法為菩薩仏菩薩ノ因と白楽天がいる語し言ハ独を
縁覚と独を毎ら毎ら語しうけもうけたりまことしハし縁覚とハ何よも
とこそいへてたし道直ふしいふハを独覚縁覚の事も即仏乗
と褒讃する也ためしてのるしよりあるせ法の花とひくと
ふの下ふ引いる独を用数の花とのみとえんべしと也
とかいら孔雀ハ菩提の心也
梅也と新也ぬ妄執雲乃廛穢つく山焼とるれる
梅也の事ハ上ふもれがごとく園景云云執情衣也ぬ美山焼
とるも執情の雲乃もれぬかりり
象ふ者ふ者ふ知者さて

為樹大士ノ云世ニ為ハ車ノ輪或ハ上或ハ下ルなくゆるとなハ十善を淫
して天上ゆのゆる事と者ようをりとひわるとなハ三毒とか
ひまくみて頭紙ようもいりくしのんと者して若みひぐさとをいるり
さて世ヨ蹴鞠ハ樹とゆふ第我ゆりて松本ゆこをいるる入道の法を
ゆ徳と卒塔婆小町とゆ多くの絆をいへども此をもゆへのゆ
れらまれをくるをこれよをその法ハ男ひぐさを立べしあるを法性の
者を為ハ若とゆまをどもをれハ大代ゆのおれと求下紀のをろう
よりひるへをりをくハをれとゆををろうて物色のおゆいる者とを者
をれハ天上地獄とんはゆんゆへをを者ををん強

助梓姓名　紀州淨福寺權律師惠周書

京春曜院殿　惠證院殿　靈昌院殿　光巖院月性壽
貞　華月幻如童女　龍雲宗珠童女　更寒守長居士
善絶妙圓大姉　融覺圓心正悅信士　物加波權之
丞　出水妙三　清譽淨念　理覺比丘尼　月窓院榮
智大姉　東洞院於長　慶安安貞尼父亡　清受尼　菊屋
平三郎　寶成院妙壽　春華榮壽　滿女　於與祢晄
讃結　小川　桂月晴雲　人見安左衛門居士
貞三信女　舟木平兵衛内壽圓　江州浅井郡三河村玉
泉寺　伊勢松坂來迎寺秀閑坊　江戸鉄山淨通居士　道
讃居士　菊池慶圓居士　道源居士　紀州月溪信女
長松院　清德院寂月永壽　月窓院　林照院春貞
室樹院妙春　與四右衛門　妙義信女　太兵衛妻

北新町佐次兵衛　岡本太兵衛内、杉宮久兵衛内
藤兵衛　同妻　同男子　庄兵衛　中嶋理右衛門寡
婦　小川清兵衛室　嘆屋妙讃　不休居士　久保田
清右衛門　仲村里右衛門　彦坂氏内姥　高譽惠性
曜悟天周　服部猪左衛門　於久仁女　九助　善
正　新谷岡右衛門妻　久右衛門　中嶋佐右衛門
法譽林貞　權三郎　善兵衛　山中氏　廣弘院内姥
善祐　野添氏　宇右衛門　忠左衛門　妙知　疊
町四郎兵衛　小川平太夫　庄次郎　權左衛門　九
左衛門　廣瀬須磨右衛門母　是久　妙久　妙見信
女　滿女　吉右衛門　澤女
願現生中壽命延長順次必生弥陀國
東叡山末院洛東正立寺經坊刊行

857
134

国立国会図書館　タイトル『法音抄 5巻』 請求記号 857-134
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『法音抄 5巻』 請求記号 857-134

ガラス使用